



木曽川下流自然観察会

テーマ 「冬鳥を観察しよう」

日時 2015/12/13 9:30~12:00 (曇り)

参加者 一般：5名 (うち子ども2名)、指導員：9名

今日の観察会のテーマは「冬鳥」です。冬鳥とは日本より北の地域で繁殖し、秋に日本に渡ってきて冬を過ごす鳥のことで、ハクチョウやカモの仲間、ツグミ、ジョウビタキなどが該当します。この辺りでは冬にしか見られないシメは、北海道で繁殖するので厳密には冬鳥に区別されませんが、今日の観察会ではぜひ見たい鳥の一つです。

木曽川左岸の高水敷を進むと、芝生の上でハクセキレイとセグロセキレイが歩き回っていました。2つの種の顔の白と黒の分布の違いを比べて見ました。

高水敷に生えている葉の落ちたエノキやムクノキの枝の間をシメが何羽か動き回っていました。特徴的な肉色の太い嘴や褐色に黒の模様が入った体の色を双眼鏡やフィールドスコープでじっくり観察できました。この辺りにたくさんいるようで、群で飛び回っていました。シメを見ていると、ツグミが枝に止まっているのが見られました。こちらはまだ渡ってきたばかりで群で行動しているようで、「クイツ、クイツ」と鳴きながら、数羽の群がいくつも飛来していました。よく見るとツグミの体の模様や色にも個体差があることが分かります。

堤防道路から川面を見るとキンクロハジロが泳いでおり、時折潜水して餌をとっていました。そのキンクロハジロを見ていた時、岸近くの木の枝にアリスイが止まっていた。名前のようにアリを食べるキツツキの仲間で、冬にこの辺りにもやって来ますが、なかなか目にする事ができない鳥で、見られたのは幸運でした。

堤防道路を上流に向かって進むと、参加者の一人がタカが飛んでいるのを見つけました。大きさからするとオオタカようです。上昇気流によってゆっくり高度をあげて西の方に飛んでいきました。

138タワーパークの東側にある一宮市の大野極楽寺公園を回っている時、望遠レンズをつけたカメラを設置している2人のカメラマンに会いました。聞くと、ルリビタキがいるということで、しばらく見ていると撮影用に設置された止り木にきれいな青色の雄が姿を見せてくれましたが、大勢の人に警戒したのか、すぐに飛び去ってしまいました。

大野極楽寺公園で以前池に来る野鳥の観察ポイントとなっていたところで、ホタルの保護グループの人たちと出会いました。池はあるが、アメリカザリガニの駆除のため干しているとのことでした。竹が繁って奥が見えない状況になっていますが、野鳥の観察をしていると告げたら、竹を伐採してくれるとのことでした。

そこで話をしている時、イカルの鳴き声がしました。声の方向を探すと梢に数羽のイカルの群がいました。しばらく止まっていたので、じっくり姿を見ることができました。数年来イカルを見てみたいと思っていた参加者もいて、感激していました。

138タワーパークから少し下流の木曽川にコハクチョウの飛来地があります。絵付けをされ、このところ70羽から100羽くらいが飛来していましたが、前日の下見で今季は来っていないようでしたので、ここに見に行くことは中止しました。来月以降、飛来が確認されたら見に行こうかと思えます。(報告：齋竹)

<その他観察できたもの> 鳥：ヒヨドリ、ムクドリ、ジョウビタキ、シジュウカラ、カワヒワ、キジバト、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、アオサギ、カワウ、メジロ(声)、モズ(声)、アオジ(声)

昆虫：ナミテントウ、ヨコヅナサシガメ、キタキチョウ、ウラギンシジミ 木の実：シロダモ、サンシュユ



(冬に見られるシメ)



(観察会のようす)